

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習の内容や生活経験を想起することを促したことで、根拠のある予想や仮説を立てる児童が増えた。

(2) 課題

- ・実感を伴う理解を深めるために、本物の動植物に継続して触れる機会や観察する活動を充実させることが必要である。
- ・様々な場面で活用できる知識及び技能を身に付けることができるように、問題解決の過程で見方・考え方を働かせることができるように一層工夫する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎	/	/
第5学年	◎	▲ (第4学年時)	/
第6学年	◎	○ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値に対して同程度だった。 第4学年は、特に「昆虫のからだのつくり」についての問題は正答率が低かった。	正答率が目標値に対して同程度だった。回答形式では、特に記述の正答率が目標値に対して上回った。	第4学年は、特に「物の重さ」について無回答が多かった。単元を問わず、学習に取り組む主体性をさらに高める必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5学年は、正答率が目標値に対して同程度だった。 第6学年は、正答率が目標値を下回った。特に、「顕微鏡の使い方」についての問題は正答率が低かった。	正答率が目標値に対して同程度だった。特に、第5学年の「物の体積と温度」、第6学年の「流れる水のはたらき」についての問題は正答率が高かった。	第5学年は、「空気の温まり方」の記述問題、第6学年では「アメダス」の理解を問う問題で特に無回答が多かった。単元を問わず主体性をさらに高める必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○問題解決の過程で見方・考え方を働かせることを通して、様々な場面で活用できる知識及び技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>○教科書やデジタル教材等を活用し、器具や機器などの正しい扱い方を理解できるようにする。</p> <p>○「昆虫のからだのつくり」について、アリのからだのつくりを予想してから、油粘土と楊枝でアリの模型をつくる体験的な活動を行うことなどを通して、知識が定着するようにする。</p>	<p>○児童にとって意外性があり、認知的葛藤が生じるような事象提示を行ったり、自由に試して問題を見いだしたりする機会を設けることを通して、「差異点や共通点を基に問題を見いだす力」が高まるようにする。</p> <p>○今まで学んだ知識を活用して解決を考える支援を通して、「既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力」が高まるようにする。</p>	<p>○単元を問わず、変化や違いが生じた理由を問うことを通して、児童自らが事象の変化や違いの理由を考え、主体的な学びにつながるようにする。</p> <p>○どの単元でも、解決したい問題に対しての予想について、根拠を示しながら話し合う活動を設定することを通して、予想通りの観察、実験の結果が得られるか確かめたいという追究する意欲を高め、主体的な学びにつながるようにする。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○問題解決の過程で見方・考え方を働かせることを通して、様々な場面で活用できる知識及び技能を身に付けられるようにする。</p> <p>○教科書やデジタル教材等を活用し、器具や機器などの正しい扱い方を理解できるようにする。</p> <p>○「顕微鏡の使い方」について、第5学年ではオープンに常時、メダカの卵の観察用に顕微鏡を設置しておくなど、第5学年以上の各学年で顕微鏡を実際に扱い、使い方を繰り返し指導することを通して、使い方の知識・技能が定着するようにする。</p>	<p>○解決したい問題について、自分なりの予想や仮説を立て、それを確かめるための解決方法を自分なりに考える機会を設けることを通して、「予想や仮説を基に解決の方法を発想する力」が高まるようにする。</p> <p>○考えた推論があっているのかと児童に問いかけ、自然の事物・現象を多面的に考えることを促すことを通して、「より妥当な考えをつくりだす力」が高まるようにする。</p>	<p>○単元を問わず、理科で学習する事象・現象について、児童の身近な体験と関連付けることを通して、興味・関心を高め、より主体的に学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○どの単元でも、解決したい問題に対しての予想・仮説について、根拠を示しながら話し合う活動を設定することを通して、予想・仮説通りの観察、実験の結果が得られるか確かめたいという追究する意欲を高め、主体的な学びにつながるようにする。</p>